

開催日時：2002年9月20日(金) 13:00～16:45

場 所：池坊短期大学 地下1階 アッセンブリホール

参加者数：委員14名(うち1名は部会長の要請により参加)、委員傍聴1名、
一般傍聴者112名

1 意見交換概要

庶務より「中間とりまとめ」の水需要関連について概要を報告後、5人の意見発表者から各20分「環境・水質・生態系」をテーマとしたご意見をうかがい、委員との意見交換を行った。

<意見発表者による主な発表内容>

・うどのクラブ 佐川克弘氏

大阪府営水道の需給計画とその問題点など

・京都・雨水利用をすすめる会 安田 勝氏

治水・利水・防災・環境における雨水利用のメリット、京都府・京都市をはじめ行政の雨水利用の取り組みなど

・大阪府中部農と緑の総合事務所所長 岡本康敬氏

淀川左岸用排水管理組合事務局長 石橋三男氏、技術長 木村哲也氏

淀川以南の農業用水の実態、水路の浄化対策、水路使用の展望、水需要管理に対する意見など

<主な意見・意見交換>

・大阪府では水の供給不足を予測し、水を供給する施設整備を計画しているが、予測は東京都のデータから算出したものであり、府では現状の施設で十分供給できる。ダムを建設する必要はなく、水が足りなくなった場合は余剰の工業用水を使えばいい。(発表者)

・雨水利用は内水被害の軽減など治水をはじめ、利水・防災・環境においてもメリットがある。今後は行政、企業、市民が役割分担をしながら雨水利用を普及させてほしい。(発表者)

・雨水はどのくらいの需要を担えるのか。また水需要を考えるにあたって、雨水利用はどう位置付けられるか。

一般家庭では経済的なメリットは少ないが、学校や庁舎などの大規模施設ではメリットが大きい。普及のためにはコストダウンと行政の支援が必要。また雨水利用は、水需要と直接結びつきは少ないと思われるが、水利用についての切り口、水需要予測を考えるファクターの一つといえる。(発表者)

・水需要管理の考え方には総論賛成だが、大阪府のように農地が分散している状況では残存した農地の積み上げがそのまま需要とはならない。

・中間とりまとめに「住民参加」が書かれているが、かつて、小さな農業用水は地域が管理してきた。今後は行政と地域が力を合わせて、美しい水路を効率的に維持するシステムを作るべきだ。(発表者)

・農業用水が少なくなると、家庭排水の影響で水路が臭くなる。川をよみがえらせるような水が流れる農業用水を整備してほしい。

2 一般からの意見聴取

一般傍聴者1名から「琵琶湖では水位低下が深刻で、西の湖では真珠の母貝が死滅している。淀川上流にある琵琶湖の現状も知ってほしい」という発言があった。

このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」を参照下さい。